



発行日
11.09.18
第 342 号
会員 163 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

全日本少年少女武道（剣道）

錬成大会出場選手

武道館特集号です。全国から集まってくる強豪に、厳しい暑さに耐えて、猛稽古をやりとげて今年の錬成大会（武道館）に立ち向かっていった選手たちと、温かく見守っていただきました父母会の声を特集してあります。どうぞお読みください。
発行が遅れましたことお詫び申し上げます。



先鋒 日高諒久
次鋒 戸田結夏
中堅 金子歩未
副将 白井瑛美
大将 川崎和司
補欠 白井俊太郎

武道館正面での、出場選手のみなさんと川崎克子先生の写真です。
選手のみなさんが着装している胴は故川崎利美名誉会長からの、「誠」の文字の入った記念の胴です。剣友会の子どもの達のがこれの胴です。
子ども達はこの胴を着装すべく、厳しい稽古に耐え、先生方の厳しい指導を受けての錬成大会出場です。

武道館に行つて

先鋒 日高諒久

ぼくは、昨年ほ欠で武道館に行きました。今年は先ほうで、昨年は見ていただけだった試合に出ました。

先ほうはすぐきんちようしました。でもいつも以上にできました。しかし、基本では八夕を、3本とられてしまい「まけるもんか」とおもってやった一本勝負でも負けてしまいました。

けいは大変だったけど、先生に教わってきたことを、ちゃんと守れたと思いました。

もつともつとがんばって、けいをして来年は最後の武道館だから、絶対に一回戦を勝って、勝ちすすみたいです。

まずは秋にある大会でがんばりたいです。それにけいは休まずになるべく行きたいです。



昨年の補欠をバネに、今年は先鋒に選ばれた日高選手の面です。最初の面が試合の流れを変えていきます。気合いのはいった大きな面を打ちにいく日高選手の勇姿（ゆうし）です。



はじめての武道館

次鋒 戸田 結夏

私は、はじめての武道館でした。思ったよりも大きくて、こんなに大きいんだとびっくりしました。

武道館でじゅん番をまわっているときにとってもドキドキしていました。歩未ちゃんと、

「ぜったいに勝とうね。」
とっていました。

そして、自分たちの番がやってきました。試合では負け
てしまったけど、自分では、全力でできたと思います。

なおそうと思ったところは、先生に言われたんですが、
もうすこしうってぬけるときのなどにいきおいをつける
といいといわれました。たしかに私は足り足がにがてです。
なので、早くぬけられるようにけいこの時に意識しようと
思いました。

来年の武道館に出られるように、今年負けてしまつて、
何がわるかったかなどを考えてけいこで、それをなおした
いです。そのために、けいこをなるべく休まないようにし
て、元気ががんばればいいと思いました。出られるのであ
ればかちたいです。



照明（しょうめい）がパツとついた時、武道館に立っていた戸田選手の思いはひとしお
だったと思います。この経験は誰にもできるものではありません。終わった後の反省、
この気持ちがすばらしい。



目標だった大きな声は出せましたか。辛（つら）かった週4日の稽古で大きな気合いをだせるようにな
ったのです。面越しに見える相手をしっかり見つめている金子選手の目が印象的（いんしょうてき）
です。

一試合でも勝ちたかった

中堅 金子 歩未

私の目標は「大きな声を出す！」、前の武道館の後から
決めていました。

水・木・土・日と稽古をしました。私はけいこのとき
こんなことを言われました。「やあーじゃなくてえーいっ
て言ってみな。」と言われ、その日から気合いは変わりました。
勉強会、お参り、おひろめ、栄養会とやって、最
後のけいこになりました。

当日、武道館には、大勢の人がいました。練習、入場、
開会式をしました。私たちは、第六会場の十試合目です。
今回は勝てる。と思っていました。私は中堅です。今ま
でのことを発きするときになりました。

先鋒、次鋒は負けてしまったので「勝とう」とがんば
りました。でも、旗を一本も上げることができませんで
した。試合では、すぐに負けてしまいました。

私たちのチームは負けました。声は出せていたけれど、
やっぱり勝ちたかったです。来年、武道館に出る人は、
一試合でも勝ってもらいたいです。



発行日
11.09.18
第 344 号
会員 163 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会(武道館)特集号

武道館の感想

副将 白井 瑛美

今年は私にとって二度目の武道館でした。
今年はずっと暑い中、きびしい練習をたくさんやりました。暑くて気持ち悪くなったりしましたが、がんばって、練習しました。

そして、武道館の試合が始まり、相手は、山梨県のチームでした。そのチームは、とても強くて、勝てませんでした。私は、基本では一本しか上がらなくて、試合では負けてしまいました。

私の去年の目標は、旗を三本とる！でしたが、今年はその目標が達成できなくて、とても残念です。

来年は、弟や後輩の応援に行きたいと思っています。あと、その他の試合もがんばりたいです。

錬成大会をおえて

大将 川崎 和司

五月から武道館の練習が始まりました。かんたくは、川崎先生でした。練習した日は、水曜、木曜、土曜、日曜でした。練習では、きりかえしの時大きくふり上げることを注意してやりました。

七月二十三日試合の日が来ました。入場行進の時は、どんな相手とあたるか楽しみでした。試合の直前になってきんちょうしはじめてきました。ぼくは大将でした。相手は、山梨県からきた高根少年団(A)とでした。基本では、絶対はたを、三本上げてやると思ってたが、一本しか上がりませんでした。

一本勝負では勝つと思いましたが、引き分けて残念でした。

試合の結果は、負けてしまいました。すごく残念で、やしかったです。

ぼくは、六年生なので来年はないけれど、来年は、武道館に行ったら後輩たちのおうえんに行ったら来年のチームには勝って一回せんとはしてみたいです。



キャプテンとしてみんなを引っ張ってきた川崎選手にとって、この武道館は思い出深いものになったと思います。旗(はた)を上げてやるといふ気持ちがこの切り返しに出ています。この思いを後輩(こうはい)に稽古の中で伝えるのも役目です。



気持ち悪くてもがんばった武道館の稽古は、中学・高校に行ったら思い出そうです。その時を思えばいつもがんばれると言っています。目標達成はできなかったけれど、この体験がきっといいものになりますよ。



発行日
11.09.18
第 345 号
会員 163 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

日本武道館に行つて

補欠 白井 俊太郎

ぼくは、はじめて武道館に補欠として行きました。れんしゅうのときは川崎先生が教えてくれました。川崎先生がやすみだったら小池先生が教えてくれました。

武道館稽古は大変でした。

武道館当日、思った以上に応援しにきた人が多かったです。

入場行進はきんちようしました。

だけど音楽がながれたりしたり、選手たちいっしょに歩いてうれしかったです。

試合はあとすこしの所で全員負けてしまいました。でも、みんな自分のいい所を出せていてよかったです。次の武道館げいこのときがんばって、そして僕も自分のいい所を出したいです。

あと、メンバーにえらばれます。

全日本錬成大会を終えて

父母会長 川崎 誠

今年は息子の和司にとって、最後の武道館の大会でした。六年生、しかも大将ということ、本人も昨年とは違う意気込みを持って事前の臨んでいた様に見えました。

今年の梅雨明けから猛暑となり、週四日の稽古はかなりハードなものだったと思いますが、忙しい中、子ども達を熱心に指導して下さった先生方、そしていつもあたたかく励まし、サポートして下さった父母の皆様の大きな支えの中、子ども元気に大会を終えることができました。

全国から集まった少年少女の剣士達と共に、武道館の大舞台に立てたのは、本当に幸せな事であったと思います。試合は残念ながら負けてしまいましたが、試合後、和司が流した悔し涙の中から、きっとこれからつながる何かを感じとってくれたと信じています。

和司は、来年は必ず後輩達に勝つてほしいと言っています。来年も武蔵台剣友会の選手が、あの武道館の大舞台で元気に試合ができる様、私も父母としてサポートしていきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

全日本少年剣道錬成大会に参加して

日高 久史

親として二回目の武道館参加をさせてもらいました。

長男の諒久が先鋒として出場しました。監督の川崎先生はじめ諸先生方のご指導と、父母会の皆様のご協力により、今年も無事に武道館に参加することが出来、誠に有難うございました。

錬成大会は、少年少女剣士の甲子園の様に感じています。大会に向けて一生懸命に稽古を重ねて臨むはれ舞台に思えます。

試合は、残念ながら負けてしまいましたが、選手達が生懸命に試合に臨んでいる姿、試合に負け、悔し涙を流している姿を見て、子供達は、剣道を通して素晴らしい経験をしていると改めて実感しました。

小学生から、目標にむかう為の努力、試合での緊張悔しい思いを体験出来るのは、貴重です。来年の親として出来ることを一生懸命やります。ありがとうございました。





武道館を終えて

戸田 結夏の母

初めての経験で、週四日の練習の送迎は、大変なものがありませんでした。子供達も、学校のプールに、暑さと、過酷な中の練習。その先に見えるものが、初めてなのでわからない分、「大変だあ」と思っていました。

ですが、大会が始まり、子供達の今までの練習の成果を見て、すごく、立派に見え、堂々として見え、今まで、やってきた事は、ムダではなく、すごく成長しているんだと気付いた時には、涙が止まりませんでした。くやしい？ような、子供が大きく見えて嬉しいような・・・不思議な気持ちになりました。

この日を終えて、子供も私も剣道に対する気持ちが変化しました。

私達親子にとって、とても良い経験をさせて頂いて、先生方や同志に感謝しています。

全日本錬成大会を終えて

金子 京子

平成二十三年七月二十三日、我が子の日本武道館出場の幕は閉じました。七年間という歴史、言葉では表せない数々の思い出があります。これまでご指導いただきました先生方、監督の方々ありがとうございました。

今回の試合は、残念な結果でした。試合ですから勝つ目標で日々頑張りました。授業で山登りをし、その後のプール、そして放課後稽古。疲れ切っているはずなのに休む事なく足を運び、親達は休ませてあげたいと思っていたはずで、ここで頑張らないといけないと子供達の気持ちは一つになっていました。監督であり和司君のお母さんでもある川崎先生は全てを承知された上で、体調管理をしながらその日のメニューを配慮してくださいました。そして何よりも嬉しかったのは、稽古の最後に一人一人に必ずスキップをしながら声を掛けていただいた事でした。

一つの目標に向かっていく頑張ることの大切さを子供達に教えていただきありがとうございました。



剣道をやりたと言われた時、本当はためらいましたが、今は、娘に剣道をやらせて、良かったと、心から思います。

来年もまた、日々の努力を積み重ねて、当日に、成果を発揮できる様に、がんばって欲しいです。忙しい中、子供達の事を思い、時間を作ってくれた先生方、本当にありがとうございました。子供の心の中に残っていると思います。



発行日
11.09.18
第 347 号
会員 163 名
武蔵台剣友会
渉外・広報部



錬成大会（武道館）特集号

武道館に行くということ

白井 浩

何度も休みたいという気持ちを振り切ってつらい練習をいつもの何倍もやり、やり通して、自分自身で感じたかすかな自信と大きな達成感。辛苦を共にした仲間との信頼感。開会式の高揚感。試合開始を待つ時の緊張感。先生の指導を思い出し震える手で面ひもを結び相手と対峙した時の胸の高鳴り。

勝負がつき、相手の強さに打ちひしがれ、自分を支配する挫折感。頬をつたう涙。それでも『何くそ!』と思い、次の目標に向けて練習を始める。

子供たちはこの数ヶ月間、剣道を通じて本当に得難い経験をさせていただきました。成長して社会人となったときに今回の経験がきつと役にたつてくれと思います。

姉の瑛美は今年で最後でしたが中学に進学後も剣道を続けてくれるようです。弟の俊太郎は今回はじめて補欠として練習をとみにさせていただくことによつて『何かを掴んでくれたら』と、かすかな希望をいだいております。

お忙しいなか、厳しくも優しくご指導いただいた川崎先生。いつも優しい眼差しで、子供たちを見守っていただいた先生方、諸先生方、諸先輩の方々、一人で泊まり込んで席順を確保していただいた日高さん、多くのご父兄のみなさん、本当にありがとうございました。

父母会の方へ

今年は例年になく猛暑の上、週四回の日程は父母会の皆様にとっても厳しかったのではないしょうか。剣道着だけでも夏は大変なのに、更に防具を身につけての稽古です。健康管理も大変だったと思います。有難うございました。今後も「武蔵台剣友会」へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

